

2025年3月期 第1四半期 決算説明会資料

2024年8月6日



株式会社新日本科学

SHIN NIPPON BIOMEDICAL LABORATORIES, LTD.

1. 総括	P. 3
2. 2025年3月期 第1四半期決算概要	P. 9
3. 事業トピックス	
①CRO事業（非臨床）	P. 19
②CRO事業（臨床）	P. 29
③TR事業	P. 31
4. Q&A	

1. 2025年3月期 第1四半期総括



代表取締役会長兼社長
永田 良一

1. 2025年3月期 第1四半期 実績

- 業績、受注高ともに通期予想に対して計画通りの進捗
- Satsuma社経鼻偏頭痛薬STS101は10月末までの米国FDA再申請に向けて計画通り準備が進んでいる
- 新日本科学PPD（関連会社）からの持分法利益は前Q1比24.3%増の6.8億円と過去最高を更新

2. 2025年3月期 見通しと今後の方向性

- 新社屋研究所は5月末竣工、8月中旬から稼働予定
- 人財の大幅強化、実験施設の拡充、実験用NHPの国内繁殖体制確立等、戦略的な先行大型投資を継続して実施、2026年3月期から投資回収期入りを予想
- SBIグループと業務提携しグローバルゲートウェイ構想に着手

3. 企業価値向上に向けた人的資本経営への取り組み

- 経営の根幹は「人を育てること」。独自の社内研修プログラムを推進

持続的成長のために第3の成長エンジンを稼働



第1の成長エンジン
実験用NHPを用いた非臨床事業

1980



第2の成長エンジン
臨床事業（新日本科学PPD）

2000



第3の成長エンジン
経鼻投与プラットフォーム技術

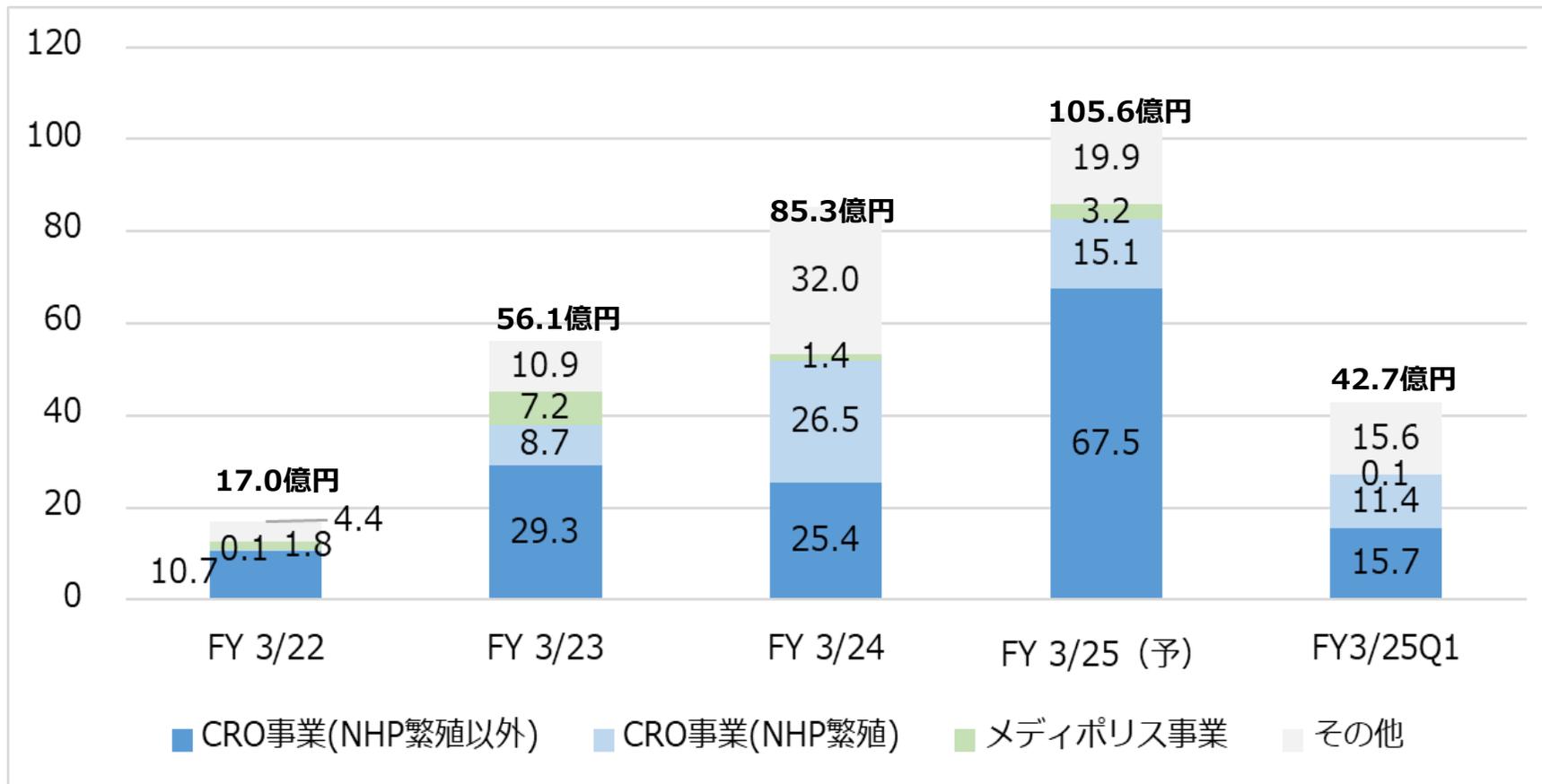
2020

2040

設備投資の状況

2025年3月期Q1の設備投資額は42.7億円。今年度が先行大型投資の当面のピークと見込む

(単位：億円)



鹿児島本社 新社屋研究棟
2024年5月末に竣工

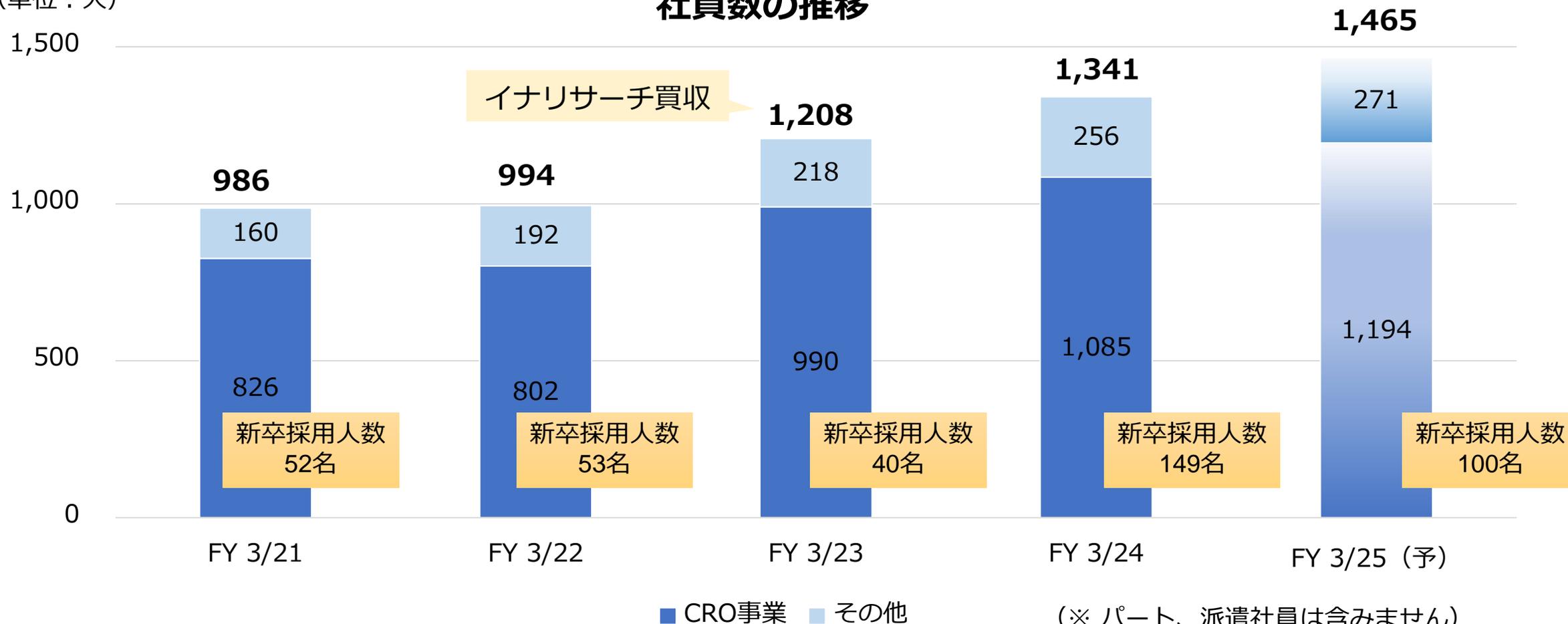


新社屋研究棟の定礎

24年4月の新卒採用は100名。新卒採用は23年4月の149名がピーク。来年4月も100名程度を計画

(単位：人)

社員数の推移



経営の根幹は「人を育てること」。独自の社内研修プログラムの実施で人財育成が進む

- 6月に永田塾（11期）、永田予科生（6期）、永田大学校（8期）で合計30名が卒塾
- 6月に社内プロフェッショナルによるモーニング講座（全88講義）を修了
- 6月に入社3年以内の若手育成プログラム「XUP」の活動報告会開催

新日本科学の社内研修一覧

	必須	選択	選抜	
役員	役員研修			
管理職	情報セキュリティ研修 コンプライアンス行動指針研修 機密情報漏洩防止対策研修 理念研修 経営者マインド研修 MY理念実践(四行日記)	人事労務管理研修	永田大学校	
主任・副主任		コーチング研修	永田塾	
若年層		木鶏会	社内プロフェッショナルによるモーニング講義	永田塾予科
新入社員		ベネ・ステフリーラーニング	マネジメント研修(3コース)	
派遣			英語研修(5プログラム)	
パート			DX研修	
		日本語研修(外国人従業員)		
		新入社員研修		
		XUP		

2. 2025年3月期 第1四半期決算について



常務執行役員
IR広報統括部長
サステナビリティ担当
岩田 俊幸

2025年3月期第1四半期 決算ハイライト



- Q1業績は通期計画に対してほぼ想定通りの進捗
- 売上高が減収となった主因は、主力の非臨床事業の売上の多くがQ2に集中したため
- 営業損益の減益の主因は、米国Satsuma社の経費5.9億円および戦略的に大型先行投資を継続していることによるコストアップ

(単位：億円)

	2025年3月期		
	Q1実績	前期比	
売上高	55.4	-2.5	-4.4%
営業利益	△1.4	-13.7	—
経常利益	3.4	-15.3	-81.8%
経常利益 (為替差損益影響を除く)	6.2	-9.6	-60.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1.2	-12.5	-91.1%

【持分法利益】 2.3億円の増益要因
 24/3期Q1 +5.3億円
 ⇒25/3期Q1 +7.6億円

【為替差損益】 5.7億円の減益要因
 24/3期Q1 +2.8億円
 ⇒25/3期Q1 △2.8億円

2025年3月期 Q1収益構造

【2025年3月期 Q1の収益構造】

(単位：百万円)

	2023年3月期 Q1	2024年3月期 Q1	2025年3月期 Q1	増加額
売上高	4,046	5,804	5,549	-255
売上原価	1,991	2,611	2,524	-87
人件費	1,198	1,665	1,916	251
売上総利益	2,055	3,193	3,024	-169
売上総利益率	50.8%	55.0%	54.5%	
販売管理費	1,340	1,966	3,169	1,203
人件費	516	703	976	273
研究開発費	116	294	617	323
飼育管理費	177	130	340	210
販売管理費比率	33.1%	33.9%	57.1%	
営業利益	714	1,227	-145	-1,372
営業利益率	17.6%	21.1%	-	
営業外収益	2,090	936	813	
持分法利益	366	531	768	237
内、新日本科学PPD	348	548	681	133
為替差益	1,686	288	-	
営業外費用	32	285	326	
為替差損	-	-	282	
経常利益	2,772	1,877	342	-1,535
経常利益率	68.5%	32.3%	6.2%	

【戦略的な大型先行投資によるコストアップ】

- ・ 人件費（売上原価および販売管理費中の合計）
：前Q1比 5.2億円増
- ・ 研究開発費：前Q1比 3.2億円増
- ・ 飼育管理費：前Q1比 2.1億円増

2025年3月期 Q1セグメント別の収益構造



【2025年3月期Q1のセグメント別売上高・営業損益】

(単位：百万円)

		2023/3期	2024/3期	2025/3期	伸び率
		Q1	Q1	Q1	
CRO事業	売上高	3,679	5,616	5,424	-3.4%
	営業利益	864	1,456	784	-46.2%
	営業利益率	23.5%	25.9%	14.5%	
	持分法利益	366	531	768	44.6%
	(うち新日本科学PPD)	348	548	681	24.3%
	事業利益	1,230	1,987	1,552	-21.9%
TR事業	売上高	11	1	10	
	営業利益	-123	-245	-801	
	(うちSatsuma)			-595	
メディポリス事業	売上高	175	196	105	
	営業利益	19	-6	-99	
その他事業	売上高	500	238	191	
	営業利益	4	39	18	
調整額	売上高	-319	-248	-182	
	営業利益	-51	-16	-47	
合計	売上高	4,046	5,804	5,549	-4.4%
	営業利益	714	1,227	-145	—
	営業利益率	17.6%	21.1%	—	

※事業利益は営業利益＋持分法利益

非臨床事業の受注高と受注残高の推移



【新日本科学の非臨床事業の四半期別受注動向】

(単位：百万円)

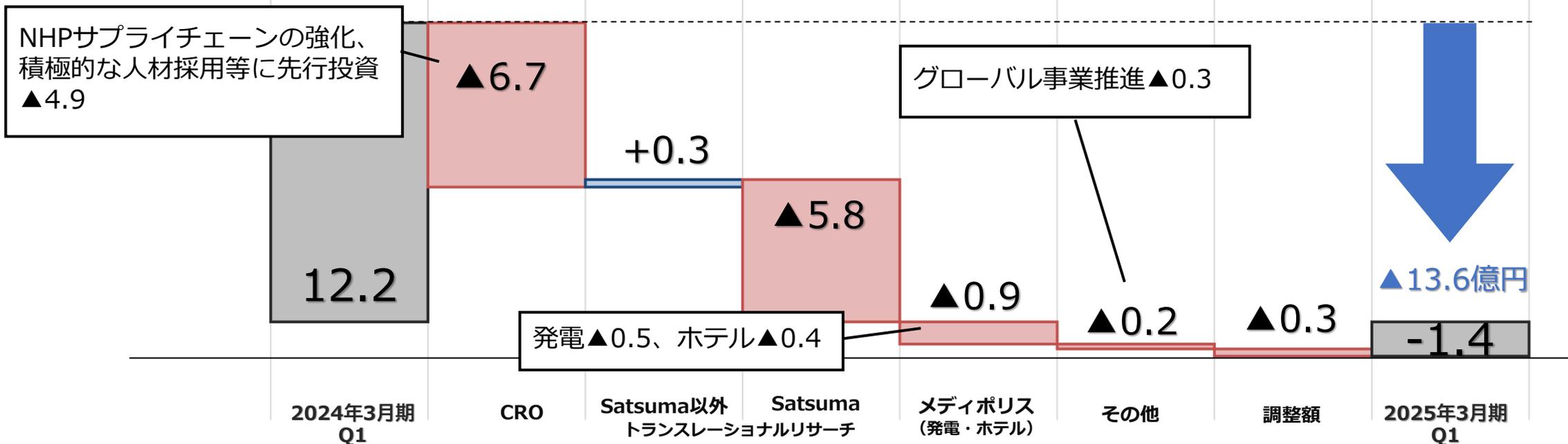
	FY 3/23					FY 3/24					FY 3/25	
	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	通期(予)
受注高	7,219	6,153	5,905	5,642	24,920	8,398	4,217	8,044	6,752	27,411	7,170	34,284
国内受注高	3,887	3,754	3,726	4,971	16,339	6,208	3,471	5,051	5,628	20,358	4,001	21,829
海外受注高	3,332	2,399	2,179	671	8,581	2,189	745	2,993	1,124	7,051	3,170	12,455
欧米	2,844	484	1,489	420	5,237	1,661	827	1,830	755	5,073	1,659	-
アジア	488	1,915	690	251	3,344	527	-81	1,162	368	1,976	1,510	-
海外受注高比率	46.2%	39.0%	36.9%	11.9%	34.4%	26.1%	17.7%	37.2%	16.6%	25.7%	44.2%	36.3%
キャンセル	-549	-926	-1,414	-1,281	-4,169	-475	-1,559	-834	-1,110	-3,978	-2,217	-
新規受注額	7,768	7,079	7,319	6,923	29,089	8,873	5,776	8,878	7,862	31,389	9,388	-
受注残高	25,756	33,672	32,585	29,248	29,248	33,329	32,210	33,863	33,212	33,212	36,051	-

(注) 23/3期Q2からイナリサーチ含む。受注済案件の中止（キャンセル）が発生した場合は、その時点でマイナス計上

2025年3月期第1四半期 連結営業利益 前期比較



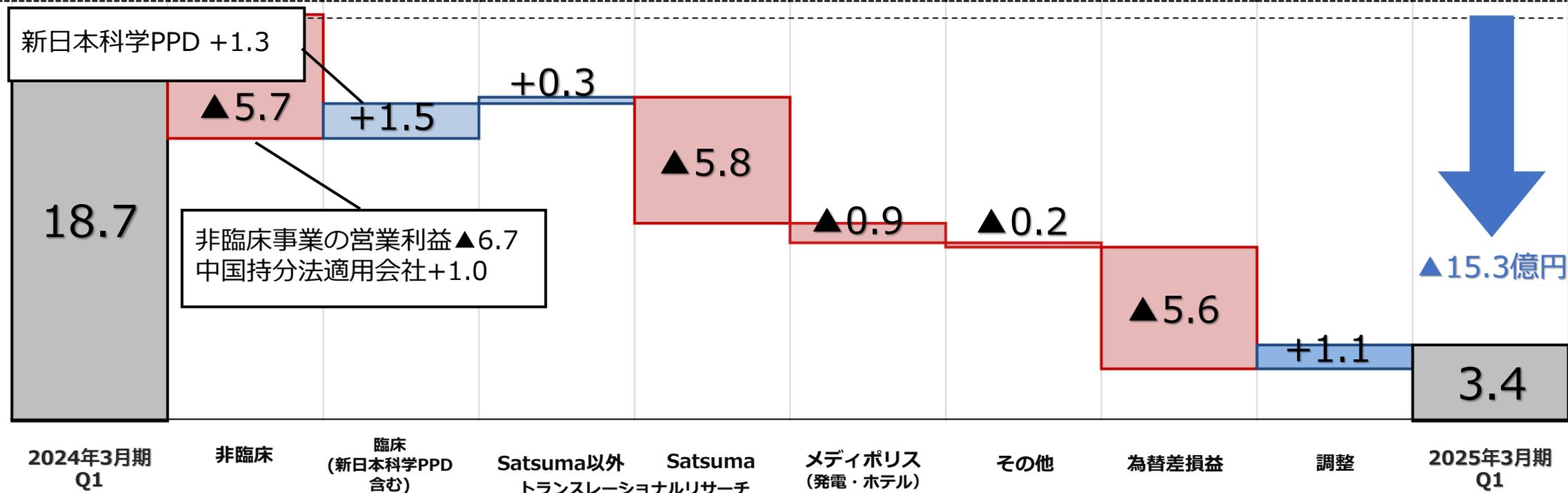
(億円)	CRO事業	トランスレーショナル リサーチ事業		メディポリス 事業 (発電・ホテル)	その他	調整額	営業利益 合計
		Satsuma以外	Satsuma				
2025年3月期Q1実績	7.8	-2.1	-5.8	-0.9	0.1	-0.5	-1.4
2024年3月期Q1実績	14.5	-2.4	0.0	0.0	0.3	-0.2	12.2
前期比増減額	-6.7	+0.3	-5.8	-0.9	-0.2	-0.3	-13.6



2025年3月期第1四半期 連結経常利益 前期比較



(億円)	CRO事業		トランスレーショナル リサーチ事業		メディポリス 事業 (発電・ホテル)	その他	為替差損益	調整	経常利益 合計
	非臨床事業	臨床事業 (新日本科学PPD含む)	Satsuma以外	Satsuma					
2025年3月期Q1実績	8.8	7.1	-2.1	-5.8	-0.9	0.1	-2.8	-1.0	3.4
2024年3月期Q1実績	14.5	5.6	-2.4	0.0	0.0	0.3	2.8	-2.1	18.7
前期比増減額	-5.7	+1.5	+0.3	-5.8	-0.9	-0.2	-5.6	+1.1	-15.3



2025年3月期 通期業績予想



- 売上高は24/3期比12.8%増、3期連続過去最高を予想
- 営業利益の減益（18.1億円減）予想は、Satsuma社の偏頭痛治療薬のFDA承認に向けた経費32.9億円（24/3期比19.5億円増）が主因

(単位：億円)

	2024年 3月期	2025年3月期		
		通期 業績予想	前期比	
売上高	264.5	298.3	+33.8	12.8%
営業利益	41.6	23.5	-18.1	-43.5%
経常利益	70.1	53.4	-16.7	-23.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	55.3	39.2	-16.1	-29.1%

定常利益 Satsuma、為替、特別損益による影響を除く			
2024年 3月期	2025年3月期		
	通期 業績予想	前期比	
264.5	298.3	+33.8	12.8%
55.0	56.4	+1.4	2.6%
83.0	86.4	+3.4	4.1%
68.7	72.3	+3.6	5.2%

事業セグメント別の推移

【セグメント別 売上高・営業損益】

(単位：百万円)

		FY 3/21	FY 3/22	FY 3/23	FY 3/24	伸び率	FY 3/25 (予)	伸び率
CRO事業	売上高	14,508	17,047	24,000	25,909	8.0%	29,247	12.9%
	営業利益	3,393	5,035	6,336	6,998	10.4%	7,878	12.6%
	営業利益率	23.4%	29.5%	26.4%	27.0%		26.9%	
	持分法利益	848	1,438	2,489	2,751	10.5%	2,981	8.4%
	(うち新日本科学PPD)	864	1,258	1,967	2,631	33.8%	2,772	5.4%
	事業利益	4,241	6,473	8,825	9,749	10.5%	10,859	11.4%
TR事業	売上高	12	12	16	13		10	
	営業利益 (うちSatsuma)	-708	-746	-879	-2,465		-4,801	
					-1,344		-3,297	
メディボリス事業	売上高	552	563	683	569		432	
	営業利益	-54	-17	-203	-254		-463	
その他事業	売上高	503	968	1,437	1,407		2,063	
	営業利益	-35	41	110	88		16	
調整額	売上高	-466	-844	-1,047	-1,448		-1,916	
	営業利益	-65	-116	-118	-205		-280	
合計	売上高	15,110	17,748	25,090	26,450	5.4%	29,835	12.8%
	営業利益	2,529	4,195	5,245	4,162	-20.6%	2,350	-43.5%
	営業利益率	16.7%	23.6%	20.9%	15.7%		7.9%	

CRO事業は売上高、利益ともに過去最高を予想

Satsuma社の赤字拡大(19.5億円)が減益予想の主因

※事業利益は営業利益 + 持分利益

為替評価損益（営業外損益に計上）

2025年3月期Q1実績：

為替差損益 ▲282百万円（2024年3月末：151.33円 ⇒ 2024年6月末：161.03円）

1円/米ドル 円安の場合

2024年3月末時点 ▲13百万円 ⇒ 2024年6月末時点 ▲22百万円

2025年3月期 想定為替レート： 145円/米ドル

為替相場変動の影響（1円/米ドル 円安の場合）

- ・売上高： 52百万円
- ・営業利益： 13百万円

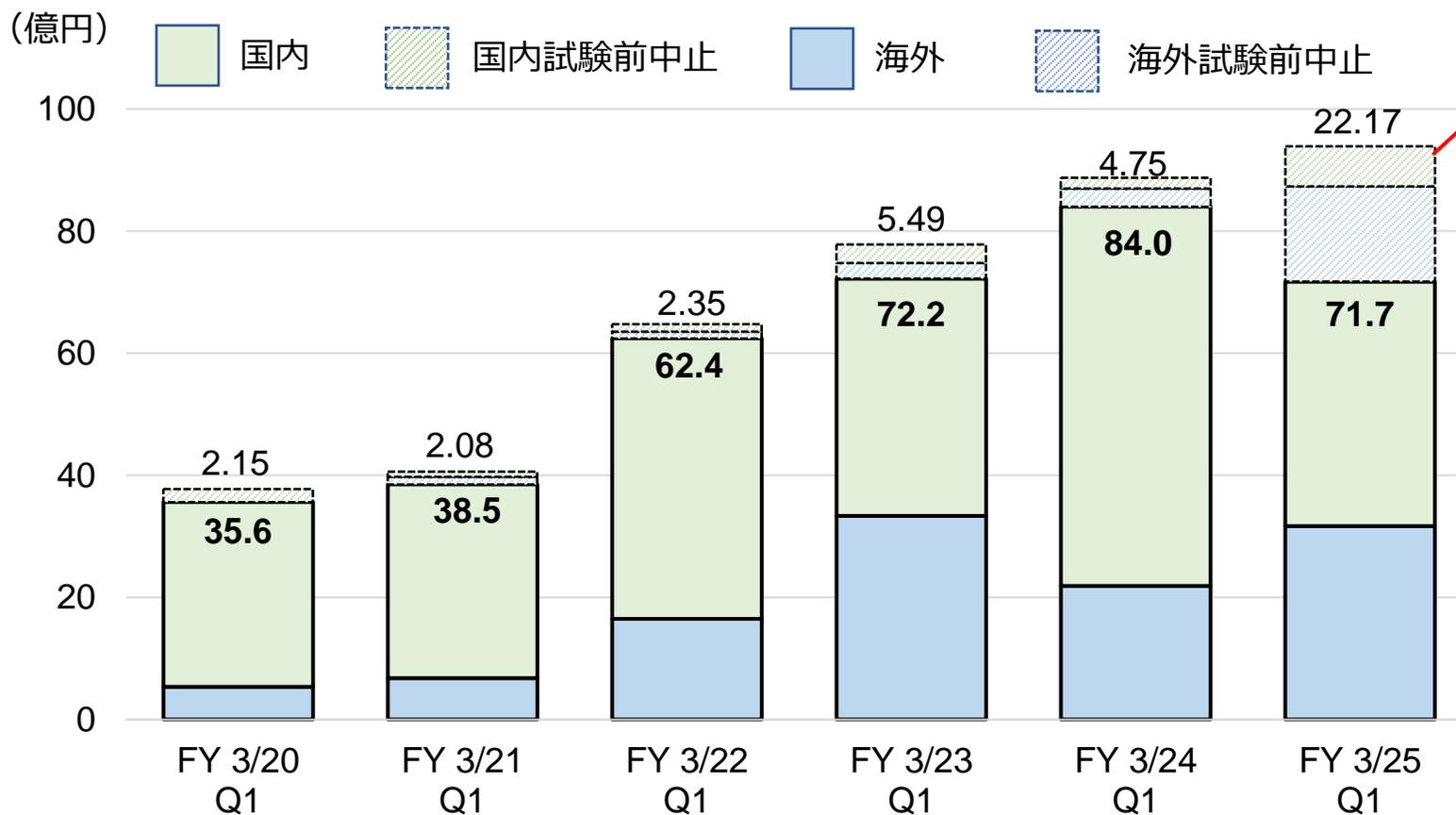
3. 事業トピックス

① CRO事業（非臨床）



専務取締役
非臨床カンパニー Global BD担当
兼 President
角崎 英志

CRO事業：2025年3月期 第一四半期 非臨床 受注状況（円ベース）



前期Q1比▲12.4億円
換算レート(期中平均)158.24円/\$

注) 23/3期 Q2からイナリサーチを含む
・ 海外受注残高は円換算レートを各期の期末レートで算定

受注残高
海外受注高比率

受注残高	121.5億円	125.3億円	172.2億円	257.6億円	333.3億円	360.5億円
海外受注高比率	19.4%	17.6%	26.4%	46.2%	26.1%	44.2%

前期Q1比+27.2億円

CRO事業：2025年3月期 第一四半期 非臨床 海外からの受注状況（US\$ベース）



(\$M)

20

15

10

5

0

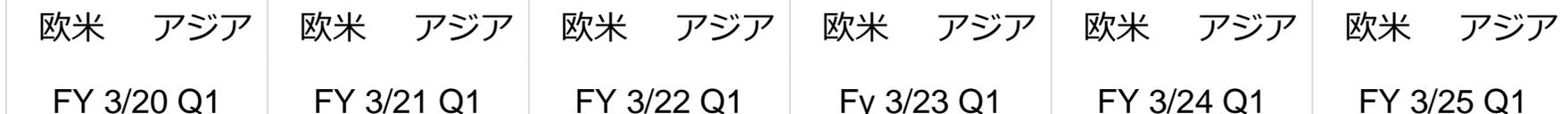
□ 試験前中止

□ 受注

前期Q1比 +\$4.2M

注)
FY 3/23 上期からイナリサーチ含む
・ 受注済案件の中止（キャンセル）
が発生した場合は、その時点で
マイナス計上

前期Q1比 ▲\$3.3M



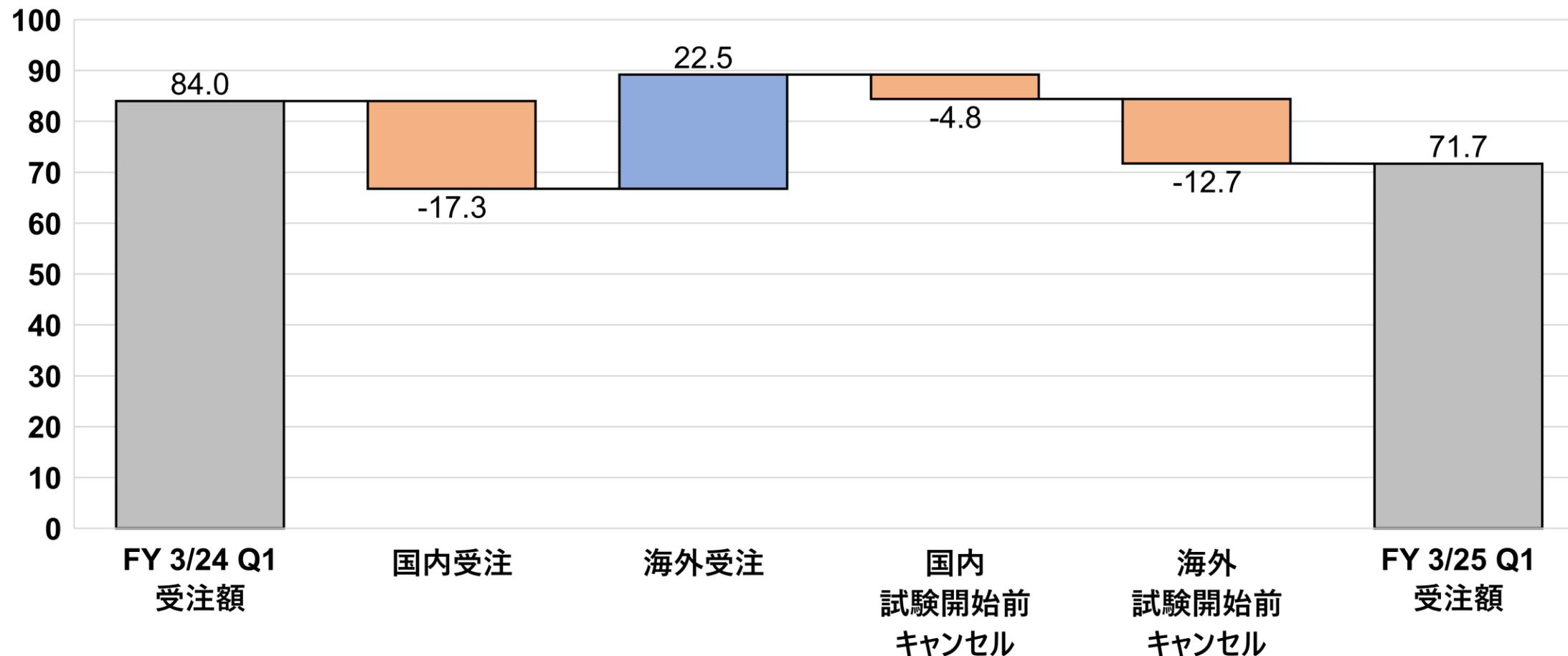
受注残高

\$21.7M	\$22.0M	\$47.1M	\$86.4M	\$100.7M	\$97.4M
---------	---------	---------	---------	----------	---------

CRO事業：2025年3月期 第一四半期 前期比受注要因分析



(単位：億円)



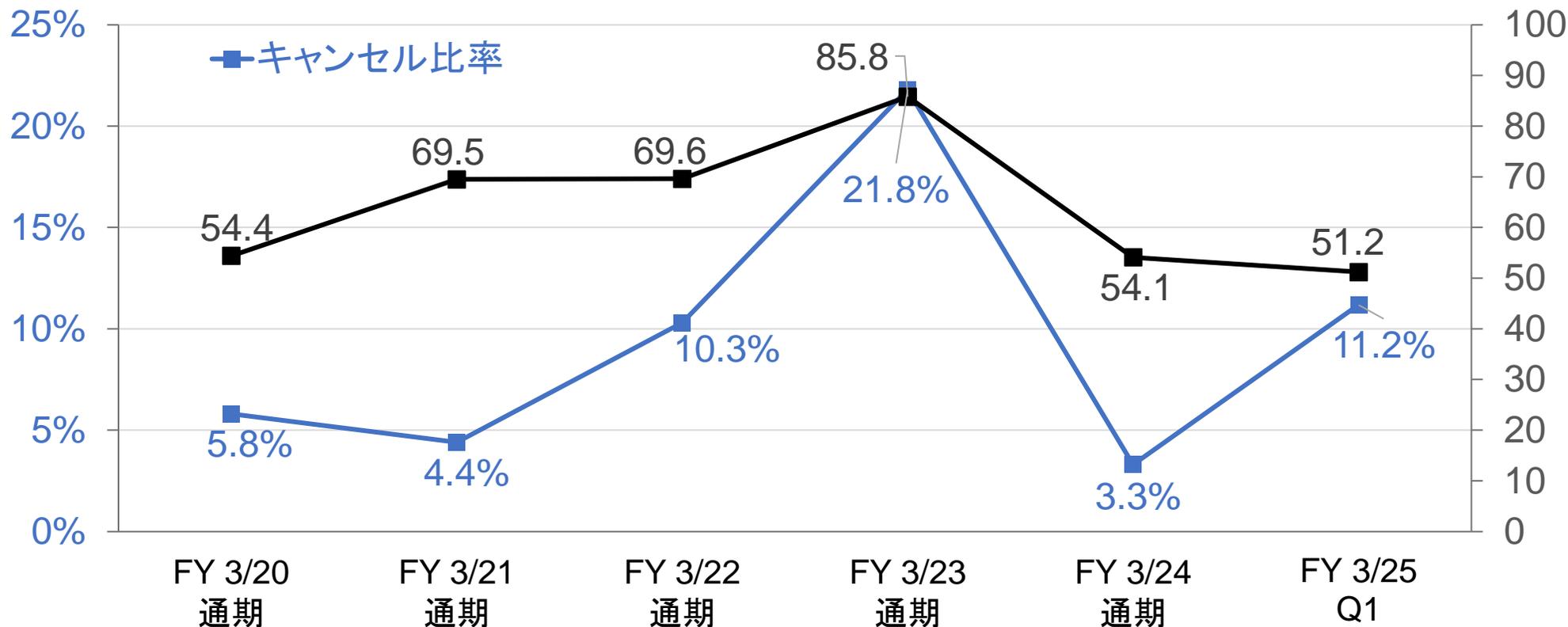
試験開始前キャンセルはFY 3/24 Q1: 4.8億円→FY 3/25 Q1: 22.2億円

CRO事業：試験開始前キャンセル



キャンセル比率

契約日から試験開始日までの日数



(単位：億円)

受注額

受注額	131.8	153.7	228.4	249.2	274.1	71.7
キャンセル額 FY 3/24期末時点	7.7	6.8	23.4	54.4	9.0	-
キャンセル額 FY 3/25 Q1発生	0	1.8	0	6.1	8.6	5.7

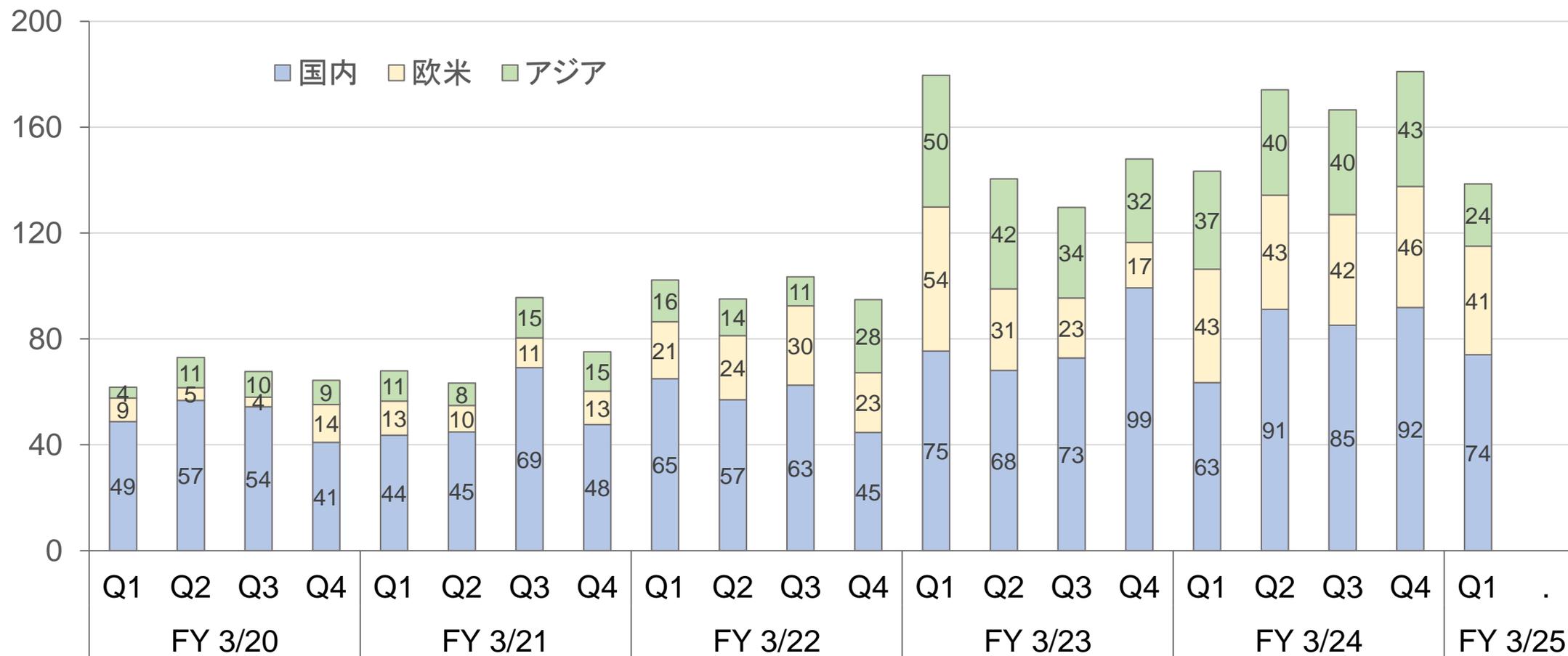
注)

FY 3/23 Q2からイナリサーチ含む
・ 受注済案件の中止（キャンセル）
は契約年度に遡ってマイナス計上

CRO事業：見積提出金額の推移

(単位：億円)

※ 海外の問い合わせ状況は円換算レートを各期の期中平均レートで算定



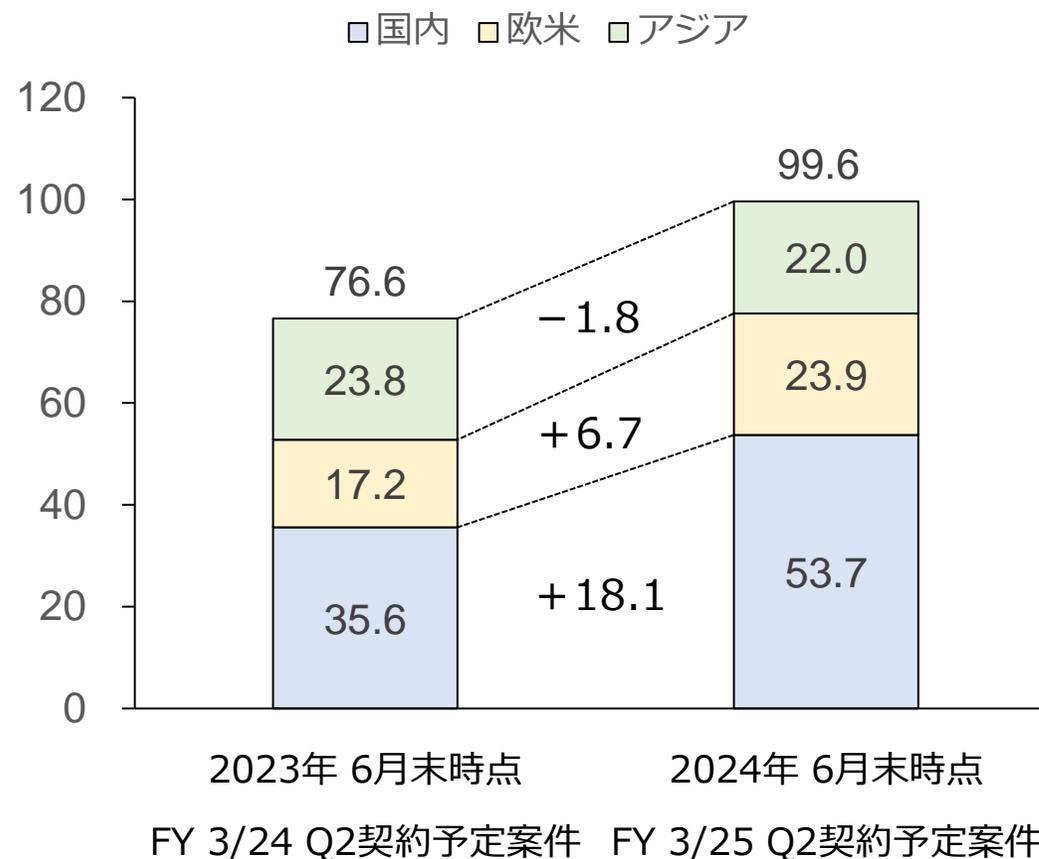
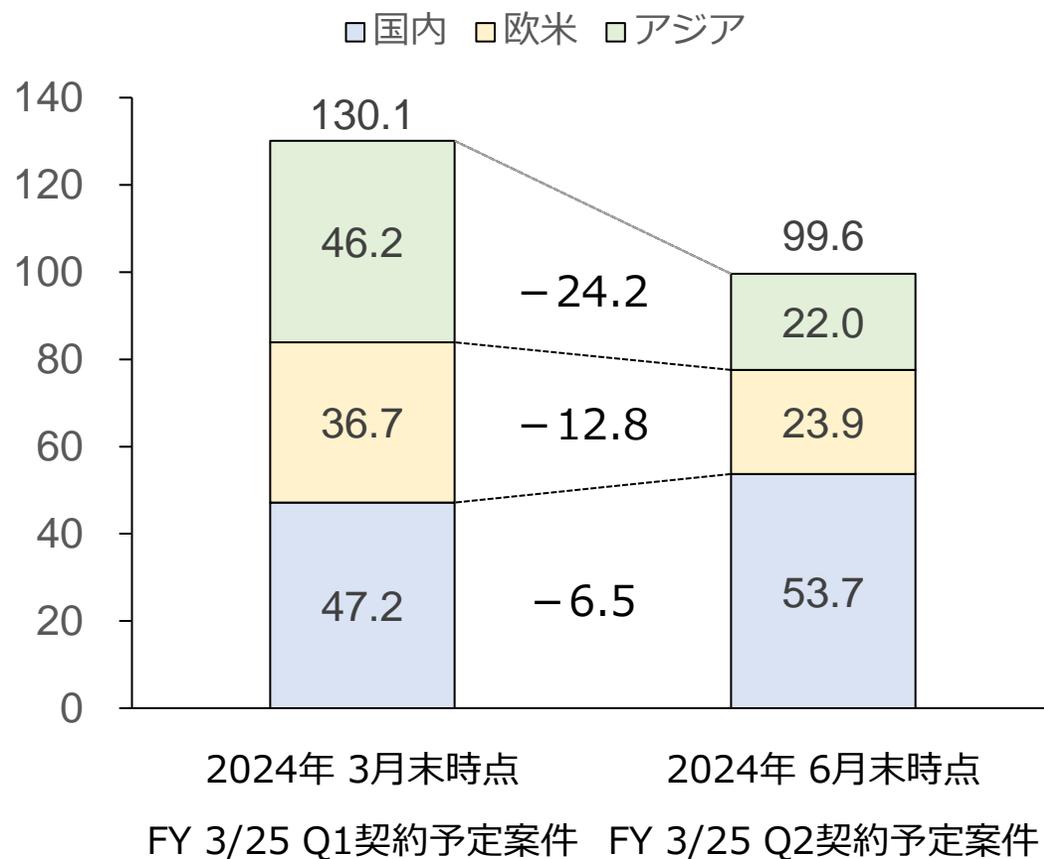
見積提出日基準の初回見積提出金額の推移は年々増加

CRO事業：2025年3月期 第一四半期 問合せ状況



(単位：億円)

※ 海外の問い合わせ状況は円換算レートを各期の期中平均レートで算定



6月末時点のFY 3/25 第2四半期契約予定案件の問合せ状況は昨年比で増加

国内

国内受注低下

- ・国内受注額は2024年3月期第一四半期と比較して2,207百万円減少した。
受注件数は微増であり（423件→455件）、大型案件の受注が一過性に少なかったことに起因している。

第51回日本毒性学会学術年会

- ・医薬品や化学物質の生体内における安全性評価に関する分野で日本最大の学会である日本毒性学会学術年会在7月3日（水）から3日間、福岡市の福岡国際会議場において開催され、当社は10演題の発表を行った。

ランチオンセミナー
企業展示
シンポジウム2演題
ワークショップ1演題
ポスター7演題



海外

アジアにおけるマーケティング

- ・台湾でBPIPO（バイオ医薬品産業振興機構）主催の特別セミナー（5/21）が開催され、当社が登壇し、台湾のバイオ系雑誌にも掲載。
- ・韓国国内で非臨床関連最大の学会であるKSNSへ参加（5/24）。

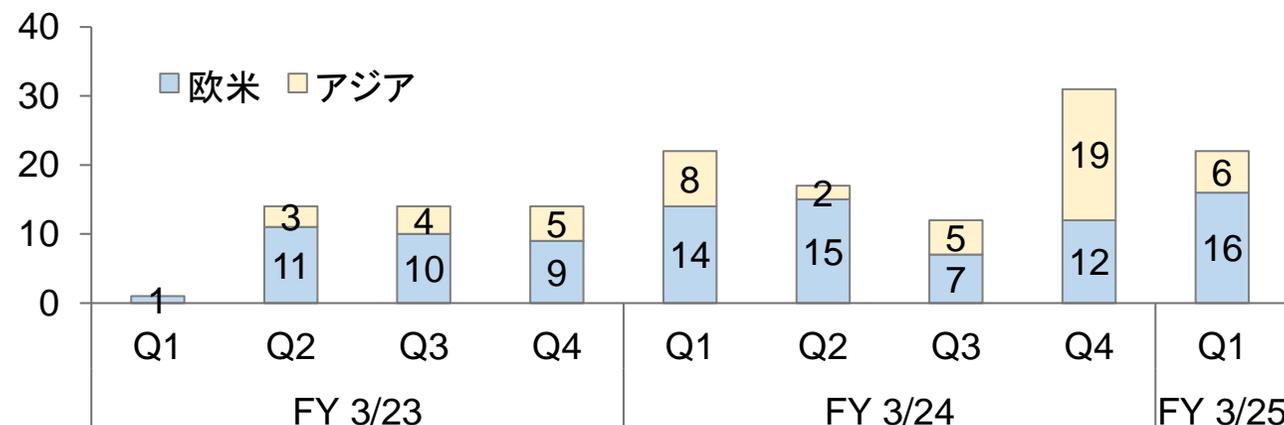
麥德凱生科股份有限公司
 新日本科學株式會社 (SNBL)
 「臺日非病毒CAR-T細胞治療的未來新前景研討會」
 首個非病毒PiggyBac CAR-T進臨床！SNBL：善用臨床前慎防脫靶毒性



海外顧客の訪問増加

- ・コロナ禍減少していた海外顧客の当社訪問が前期末より増加している。

海外顧客の訪問件数推移



新研究棟竣工によるキャパシティの増加

- ・新研究棟が竣工し、被験物質の管理、投与液調製、投与液分析、バイオアナリシス、細胞実験、Microphysiological System (MPS)の実験エリアを拡張・新設した。

区域	キャパシティ
被験物質管理・投与液調製	約3倍
投与液分析	約2.6倍
バイオアナリシス	約2.2倍
細胞実験	約2.8倍
MPS	新設



3. 事業トピックス

②CRO事業（臨床）



取締役副社長

CRO事業管掌・ホスピタリティ事業管掌

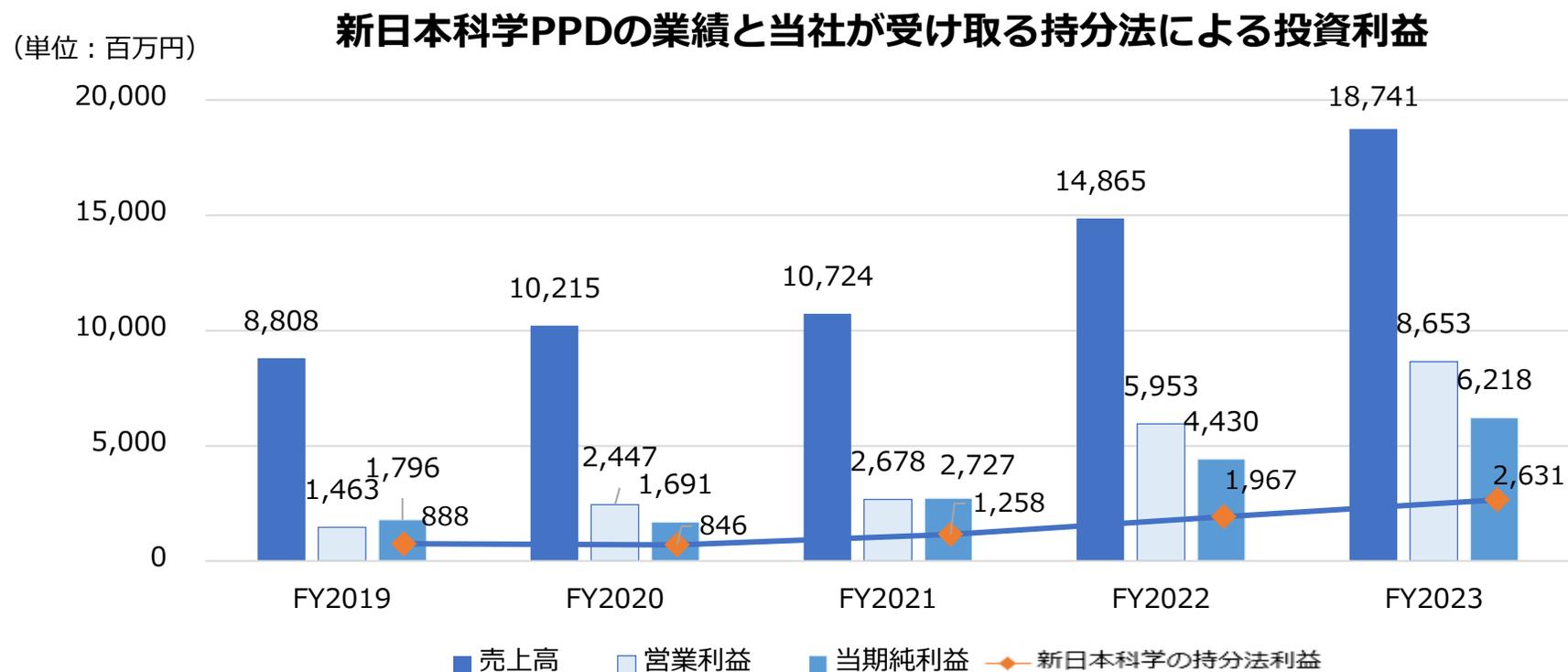
新日本科学PPD 代表取締役社長

永田 一郎

CRO事業：臨床事業について



- 新日本科学PPDの当Q1の「持分法による投資利益」は681百万円（Q1前期比+133百万円）と大幅に増加し、Q1として過去最高を記録。
- 2024年6月末の従業員数は1,031人。



売上高
4年CAGR
20.8%

持分法利益
4年CAGR
31.2%

期末従業員数

717人	732人	760人	835人	945人
------	------	------	------	------

3. 事業トピックス

③TR事業



代表取締役副社長
グローバルビジネス管掌
高梨 健

Satsuma
 偏頭痛の急性期治療を目的とする

SNLD
 パーキンソン病患者のオフ症状の改善を目的とする



**経鼻粘膜ワクチン
 研究開発センター**

複数の呼吸器系ウイルスに対し上気道に遮断免疫能を付与する粉体型経鼻ワクチンの開発

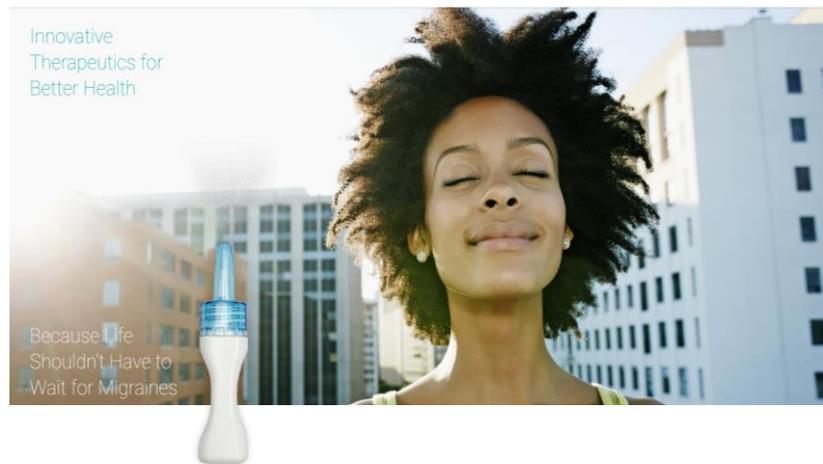
研究助成金

2024年6月 米国頭痛学会 第66回年次学会(AHS 66th Annual Scientific Meeting)において、11名のキーオピニオンリーダーと面談し、偏頭痛治療におけるSTS101に対する継続的な強い期待を再確認しました。

STS101: 偏頭痛の急性期治療において、広範な使用可能性を有する最初で唯一のDHE製品



経鼻偏頭痛薬(STS101)の開発に
特化したスペシャリティファーマ



効果実績のある薬物(PROVEN)

- ✓ DHEは、75年以上にわたって、よく効く偏頭痛薬として医師から認知
- ✓ DHEは、他の治療薬とは異なり、独特の多様な作用メカニズムを介して効果を発揮

忍容性に優れ、安全な製品 (WELL TOLERABILITY & SAFE)

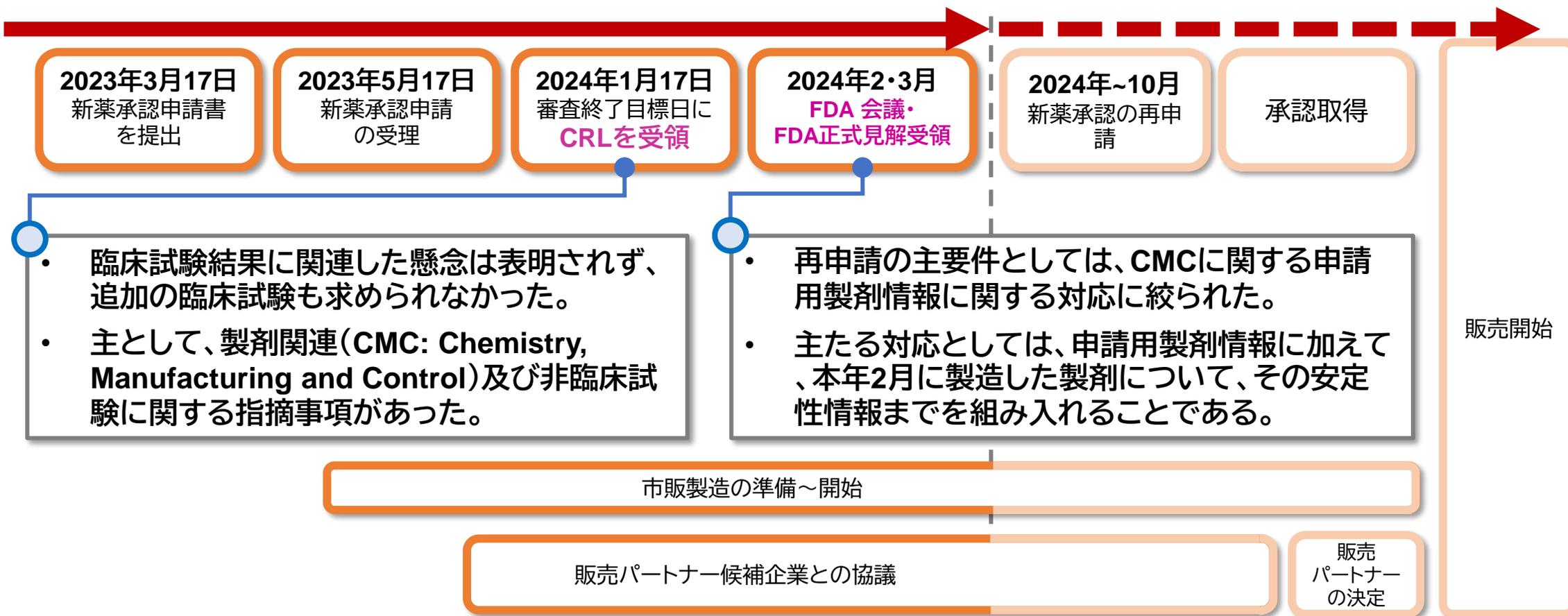
- ✓ 非経口性の急性期偏頭痛治療薬の中で、有害事象の割合が最も低い
- ✓ 臨床試験における最も一般的な有害事象は、鼻の不快感(8.3%)と味覚障害(3.7%)
- ✓ 報告された有害事象は、殆どが軽微で一時的

変革技術(TRANSFORMATIVE)

- ✓ 使い勝手と携帯性に優れた、独自のDHE経鼻粉末剤と投与デバイス
- ✓ 先端的なSMART基盤技術によって、速やかで持続的な薬物吸収を提供
- ✓ 信頼と実績を有するDHE注射剤使用時の有効性を、経鼻粉末剤で実現

TR事業：Satsuma社の審査完了報告通知とその対応方針

必要な製剤情報を収集完了した上で、本年10月末までに米国FDAへSTS101の新薬承認の再申請を行う計画です。



急性偏頭痛治療薬

世界市場：USD 2.4B (2022) *1

DHE製剤他は、トリプタン製剤やゲパント製剤が無効な患者に処方される*2,3。

DHEの潜在ニーズは大きいものの、既存DHE製剤は、使い勝手や吸収性の問題等で処方され難い状況にある。

第一選択薬

トリプタン製剤



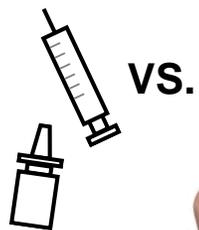
ゲパント製剤



DHE製剤他

市販DHE製剤

STS101



vs.



STS101は既存DHE製剤の問題を克服。

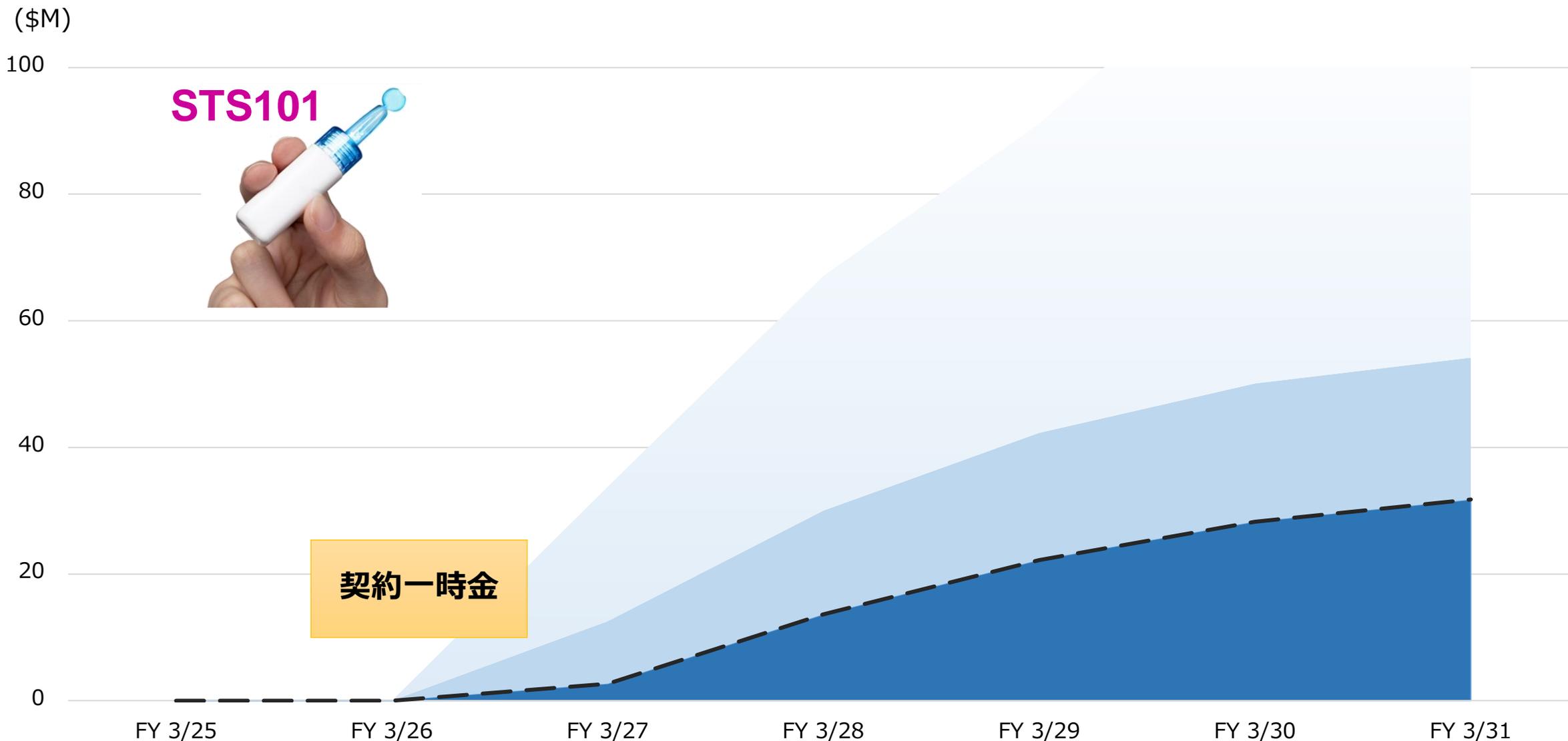
偏頭痛専門医100名に対する独自調査において、専門医が受け持つ偏頭痛患者の**30%**程にSTS101を処方したいとの調査結果を得ている。

*1: Future Market Insight Inc., Report: Acute Migraine Treatment Market (<https://www.futuremarketinsights.com/reports/acute-migraine-treatment-market>)

*2: Dodick DW., Headache. 2005 Feb;45(2): 156-62.

*3: Deen M et al., The Journal of Headache and Pain. 2017. 18:98,

TR事業：STS101の想定されるライセンス収入モデル



TR事業：SNLD社によるパーキンソン病薬の開発を推進中



【パーキンソン病の主な運動症状】



手足が震える



転びやすくなる

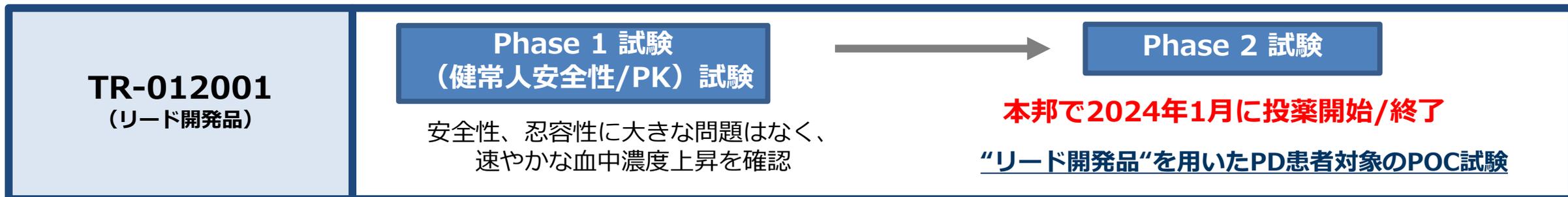


動きが鈍くなる



筋肉や関節が固くなる

当社連結子会社SNLD社は、パーキンソン病のオフ症状に対して、自分で投与でき、速やかな症状改善が期待できる経鼻オンデマンド治療薬の国内開発を推進中



日本医療研究開発機構（AMED）

先進的研究開発戦略センター（SCARDA）

Mission

安全で効果的な日本初のワクチン創出に貢献します

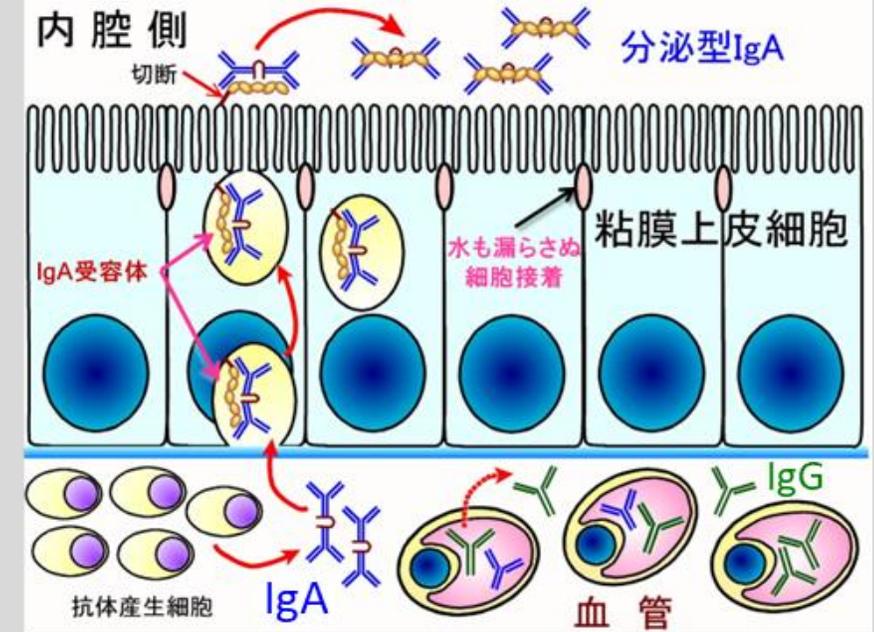
Vision

- 次の「いざ」に備えて、柔軟に対応できる研究開発体制を支えます
- 産学官の英知を結集し、世界に誇るワクチン研究開発基盤を強化していきます

令和5年度「ワクチン・新規モダリティ研究開発事業（一般公募）」
（応募36件中採択5件、採択率13.9%、民間企業では当社のみ）

当社の
「粉体噴射型 IgA 産生誘導経鼻ワクチンシステムの開発」が採択

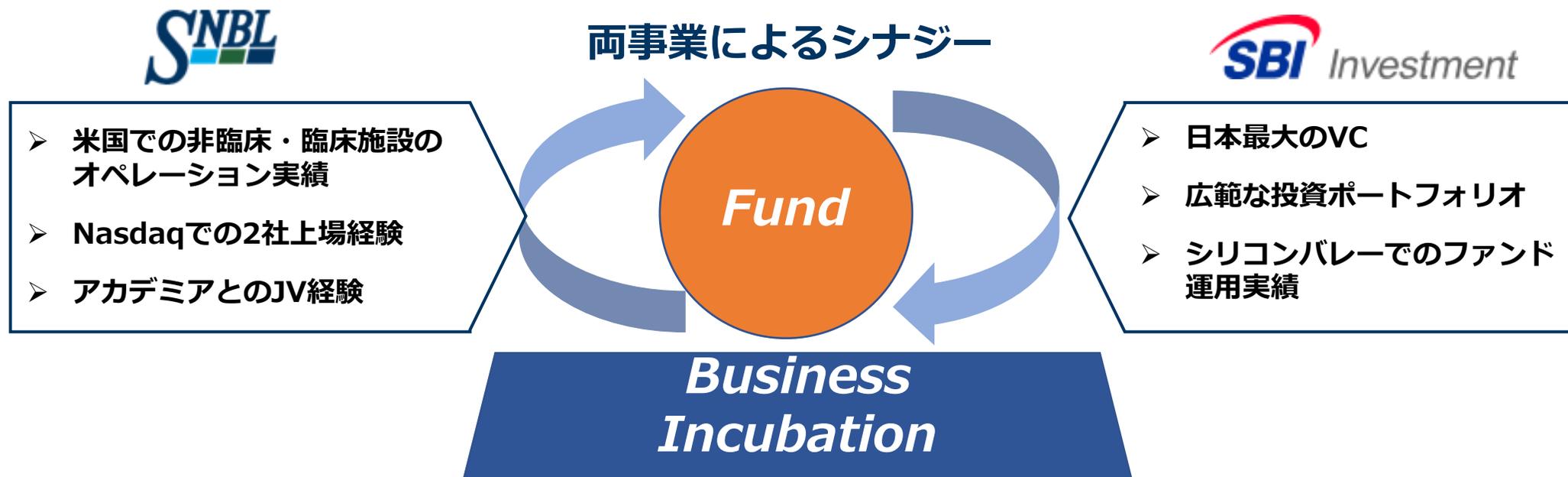
非臨床POC取得までで1億円の予算を獲得



出典：株式会社新日本科学

そもそも感染をおこさせないこと（遮断免疫）を
狙った粉体型経鼻ワクチンの
実際の臨床使用を目指す

- 当社が米国ワシントン州に所有するインキュベーション施設の運営会社を、SBIグループと共同設立
- 米国における両グループによるファンドの共同設立についても基本合意

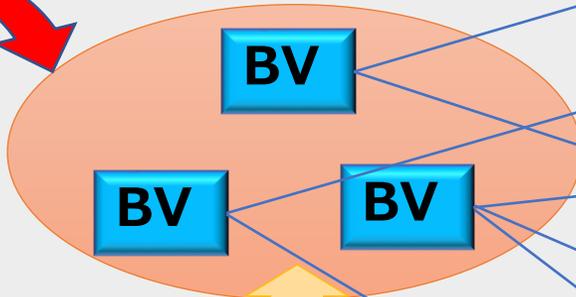
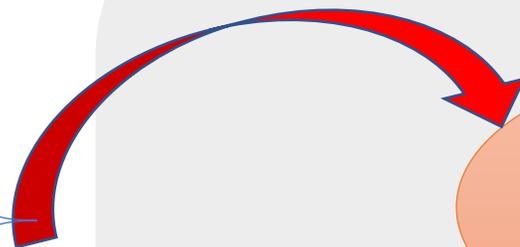


米国内にインキュベーション施設という形で投資活動拠点を構える事により、
現地VC等のネットワークを拡充し、既存投資先の米国進出サポート強化、
新規投資先の発掘や開拓を行い、現地インナーサークルから新たな投資機会を獲得する

日本

米国

SNBL Global Gateway (SGG)



施設提供 研究開発支援
資金調達支援 事業開発支援
総務人事支援 経営戦略支援

ボストン

サンフランシスコ

サンディエゴ

ボルチモア

ニューヨーク

フィラデルフィア

RTP



4. Q&A



業績データ一覧

(百万円)	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 (予想)
売上高	15,658	14,561	15,110	17,748	25,090	26,450	29,835
前年比	-5.7%	-7.0%	3.8%	17.5%	41.4%	5.4%	12.8%
売上総利益	6,177	7,615	7,554	9,687	13,046	14,282	16,308
売上総利益率	39.5%	52.3%	50.0%	54.6%	52.0%	54.0%	54.7%
営業利益	829	2,228	2,529	4,195	5,245	4,162	2,350
前年比	-	168.5%	13.5%	65.9%	25.0%	-20.6%	-43.5%
持分法による投資利益	361	888	846	1,439	2,489	2,751	2,981
経常利益	1,613	3,121	3,645	7,078	9,194	7,015	5,345
税前当期純利益	1,650	3,062	4,175	8,183	7,759	6,974	--
法人税等	-308	414	497	1,016	1,708	1,456	--
親会社株主に帰属する当期純利益	1,950	2,550	3,661	7,127	6,060	5,531	3,920
1株当たり当期純利益 (円)	46.84	61.25	87.95	171.20	145.56	132.86	94.15
海外売上高	4,015	2,317	2,100	3,091	6,575	8,637	--
海外売上高比率	25.6%	15.9%	13.9%	17.4%	26.2%	32.7%	--
株主資本	9,958	12,386	15,840	22,181	25,751	29,252	--
純資産額	28,477	16,381	15,838	19,723	26,359	34,160	--
総資産額	54,329	39,002	36,972	39,312	57,242	76,302	--
有利子負債	16,158	15,123	12,864	9,281	18,931	26,331	--
自己資本比率	52.3%	41.8%	42.6%	49.8%	45.8%	44.7%	--
設備投資額	1,612	1,514	1,025	1,703	5,614	8,525	10,559
減価償却費	1,361	1,229	1,187	1,177	1,544	1,774	2,751
研究開発費	339	400	392	425	683	1,741	3,121
売上高R&D比率	2.17%	2.75%	2.59%	2.39%	2.72%	6.58%	10.46%
期末従業員数 (人)	935	985	986	994	1,208	1,341	1,465
自己資本当期純利益率 (ROE)	7.1%	11.4%	22.9%	40.4%	26.5%	18.3%	--
総資産経常利益率 (ROA)	2.9%	6.7%	9.6%	18.6%	19.0%	10.5%	--
投下資本利益率 (ROIC)	-	11.7%	12.3%	18.4%	17.9%	10.3%	--
売上高営業利益率	5.3%	15.3%	16.7%	23.6%	20.9%	15.7%	7.9%
売上高経常利益率	10.3%	21.4%	24.1%	39.9%	36.6%	26.5%	17.9%
1株当たり配当額 (円)	3.0	5.0	20.0	40.0	50.0	50.0	50.0
配当性向	6.4%	8.2%	22.7%	23.4%	34.3%	37.6%	53.3%

1. 業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々なリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。
2. 本資料は国内外を問わず、投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。本資料の利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。
3. この資料に含まれている医薬品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝 広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。
4. 当資料は「2025年3月期第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」に準拠し作成しています。また、差額、比率については億円単位未満は切捨てで記載しております。

<IRに関するお問い合わせ>



株式会社新日本科学
IR広報統括部

電話：03-5565-6216

E-mail：ir@snbl.com

HP：https://www.snbl.co.jp